

巡行する人形山車の各当番区は16日、各山車蔵での「遮那王と武蔵坊」、山車の展示を始めた。三滝谷区の「真田信繁」、国祭期間中も巡行日の20日を除き21日の最終日まで勇壮な山車を鑑賞できる。6基が巡行する。南末廣区の「羅生門の鬼」の6基が巡行する。区民はもちろん観光客



展示されている南末の鬼」=16日、坂井市丁目

旧金津町出身で27歳の若くして

た昭和初期の詩人館高重(1904~31年)の詩の世界を地元の人にも知ってもらおうと、あわら市などの有志による朗読会(福井新聞社後援)が21日午後1時半から、同市中央公民館で開かれる。フルートやハーブの演奏に乘せて遺族らが約30編を披露する。(山崎彰)

旧金津出身の早世詩人

館高重 創作世界触れて

より抜粋」と勢いに満ちている。

戦後の本県文壇の礎を築いた詩人、故則武三雄さんは館について「明治の暁が(北村)透谷、(島崎)藤村にあったように、本県の場合は昭和初期にその契機

ちで結成した「館高重を偲ぶ会実行委員会」が、昨年未から企画してきた。遺族らが詩を読み上げ、館について紹介する。広部さんの弟で演奏家の正雄さんによるハーブ演奏や、フルート演奏にのせて朗読。館の「孤独と人生の悲哀」(広部さんのおとぎより)を込めた詩を鑑賞してもらう。

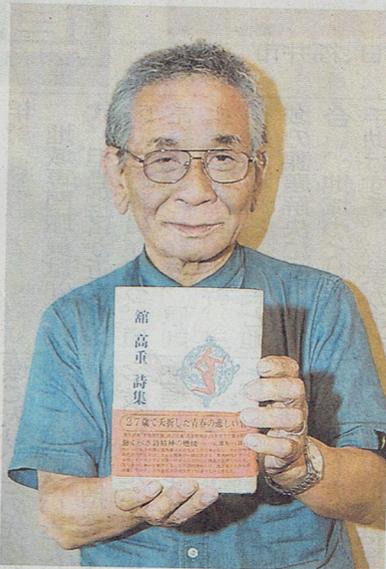
牧田孝男会長(67)は「命」と向き合う姿や、家族への愛が表れている詩を多くの人と共有し楽しみたい」と話していた。

21日あわらで有志企画

定員は約200人、入場無料。問い合わせは牧田会長☎090(16035)5710。

命や家族愛 30編朗読

があつたのではないだろうか。館高重はその頃の最も新鋭なチャンピオンであつた」(同詩集の帯より)と称賛。詩人の故広部英一さん(福井市)は同詩集のおとぎに「その詩精神の燃焼の烈しさは、まさに驚異の一語に尽きる」と述べている。



27歳で亡くなった館高重の詩集と牧田会長=16日、あわら市内

ど、迫力のある仕上がりになって話していた。20日は正午ごろまでに三國神社前に6基の山車が集合、午後1時に出発し同日夜まで旧市街地を練り歩く。(久保和男)



少子化対策に力

大野今副市長、着任

大野市が内閣府から副市長に迎えた今洋佑氏(33)が16日、着任した。今副市長は市職員へのあいさつで、地方創生や少子化対策に重点的に取り組む姿勢を強調し、「率直に意見交換して政策を練り上げたい」と意気込みを語った。

今副市長は北海道出身、東京大学大学院工学系研究科修了。地方行政に携わるのは初めてという。あいつでは市職員120人を前に「北海道から